

今月の手づくりメニュー

高浜市こども食育マスコットキャラクターのかわら食人カワラッキーが、保育園で子どもたちが食べている給食やおやつの手作り方の一部をご紹介します。

ご家庭でも簡単にできます。ぜひ、お子さんと一緒に作ってみてください。

冬瓜の煮物

材料（1人分） 鶏もも肉20g、

冬瓜90g、玉ねぎ30g、人参10g、干椎茸1g、いんげん5g、だし汁適量、醤油4g、砂糖2g、片栗粉1g

作り方

①冬瓜は厚切り、玉ねぎはくし切り、人参は乱切り、いんげんは3cmの長さに切る。干椎茸は水で戻して、食べやすい大きさに切る。

②鍋に冬瓜、人参、干椎茸、だし汁を入れて火にかける。

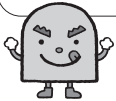
③沸騰したら鶏肉、玉ねぎ、砂糖、醤油を加え、火が通るまで煮る。

④材料がやわらかくなったらいんげんを加え、ひと煮立ちさせる。

⑤水溶き片栗粉を入れて煮汁にころみをつける。

カワラッキーから一言

冷やして食べてもいいし、夏が旬の野菜だよ。冬まで保存できる瓜という意味なんだよ。



コラム

たかはま子ども市民憲章

高浜市では、10月26日(金)、27日(土)に「地方自治と子ども施策」全国自治体シンポジウムを開催します。このシンポジウムは、国連子どもの権利条約の実現を図ることを目的にした早稲田大学喜多明人氏をはじめとする学識経験者および行政職員を中心に平成14年兵庫県川西市で開催され、以来、毎年開催されています。

市では、平成15年11月に「たかはま子ども市民憲章」を制定し、この普及啓発を行っています。このシンポジウムに関する先生たちに子ども市民憲章に関するメッセージをお願いし連載しています。

皆さんも一緒に、子どものことを考えてみませんか。

「災害時の子ども支援を考える」

山本克彦氏



山本克彦氏

◆略歴

岩手県立大学社会福祉学部准教授
 専門分野：児童福祉、ボランティア
 その他：生涯学習研究所
 SOCCO（スーポ）代表
 岩手県放課後子どもプラン推進委員会委員長
 NPO法人CASN（カズン）：Children's Action Support Network 理事
 他

7月16日、新潟県中越沖地震発生。

ほんの数年の間に再び起こった大地震に、誰もが驚きました。こつした事態では平常時にはみられない多くの新たな課題が出てきます。子どもたちにとっても同様です。家族と過ごす家は全半壊し、日中の居場所である学校は避難所となってしまうます。児童館や放課後児童クラブも被害を受け、まさに子どもが安心・安全な状態で過ごせる場所、環境が奪われていくのです。

もを見守る地域の機能そのものが低下していきます。こうした状況の中では、時間の流れと共に変化する子ども支援のニーズをしつかりととらえ、押し付けにならないように配慮した支援が重要となるのです。

災害から72時間、初動段階とされている間は家族の中で見守られている子どもも、避難所の開設などにより、多くの地域住民とひとつの空間を共有することになります。大きく変化する環境が子どもへの心身に負荷を与えていきます。時間が経つごとに家屋の整理や仮設住宅への引越しなど、オトナたちは忙しくなり、家族だけでなく、子ども

心理の専門家のような立場のオトナだけでなく、地域のすべてのオトナが支援者となり、平常時以上にていねいに、慎重に子どもに向き合い、わずかな変化も見落とさないようにする必要があるとあります。

災害時だからこそ気づく、細やかな子どもとの向き合い方。子どもは何を感じ、何を思い、オトナとしてどのように関わることが彼らの持つ力を引き出す機会となるのか…。こうしたオトナ側の態度や姿勢は、決して災害時だからということではなく、常日ごろ子どもと向き合う中でも、同じようにオトナが意識すべきことでもあるのです。